

栃木労働局長が全国安全週間に 安全パトロールを実施！

全国安全週間の初日である令和8年7月1日に栃木労働局長（中野知基）が宇都宮市内の建設工事現場で安全パトロールを行いました。

パトロールでは、重篤な災害に繋がりやすい建設三大災害（墜落・転落、建設機械・クレーン等災害、崩壊・倒壊）防止等の安全対策や、近年増加傾向にある高年齢労働者における災害や外国人労働者における災害を防止するための対策等を確認しました。

また、栃木県内で昨年熱中症による休業4日以上労働災害が2倍以上に増加したことを受け、熱中症対策も併せて確認しました。

現場ではデジタルサイネージ等デジタル化を組み込んだ安全対策や、AIを活用した熱中症対策など、先進的な安全対策が行われていました。

総評で、栃木労働局長から、建設工事現場は、現場作業の進捗に伴い、日々現場の状況が変化していくため、引き続き、管理を徹底することで、熱中症を含む労働災害を撲滅・抑制するよう呼びかけを行いました。

パトロールの様子



総評・意見交換の様子



AI判定による熱中症対策の体験

